優秀賞

人々に幸せを与える水のために

下館中学校
二年　藤　代　かれん

水は私達が生きていくうえで欠かせないものであるのに、世界では蛇口をひねって安心して水を飲める国は、日本を含めおよそ十八か国しかない。この事実に驚いた。

これらをきっかけに、水に興味を持ち、昨年の夏、自由研究で水について取り上げた。普段当たり前に口にしている水。おいしい水の条件にも、様々な基準があり、日本の水道水は、１Ｌ当り、0.1mg以上の塩素が残留していなければならないと決められている。また、地域や地形によって、水の成分も変わってくるという。今、日本では水道水の他にも、国内外の天然水なども豊富に出回っている。

私は、水道水、井戸水、国内外の市販の水の硬度や残留塩素を基準値と比較し、汲み置き、沸騰させるなどの条件を変えて、味、におい、色などでおいしさの違いを調べた。

私の祖母の家は井戸水を使用している。この自由研究を行う際、井戸水に関して何も知らなかった私は、親にこんなことを聞いた。

「井戸水って不衛生なんでしょ。」

「そんなことないよ。昔から普通に日常使って、生活しているんだよ。」

普通に使って生活しているという言葉に、現在は人口増加や土壌汚染等に伴う水質汚染が問題視されているのに井戸水は本当に大丈夫なのか不安が残った。しかし、実際に飲んで調べてみると、予想していたものとは違った。井戸水も安全においしく飲めるということを知りとても驚いた。この研究を通し、私なりに水のおいしさを知ることができた。

だが、心にひっかかる点があった。世界に視野を広げてみるとどうだろうか。前にも書いた通り、安全な水を飲めるのは十八か国という点だ。同じ地球上でも、日本のように安全な水を飲める国は本当に

少ない。発展途上国を中心に水不足や水源の汚染、技術不足などによって、安全な水を飲める環境や手段がないためだ。

九億人もの人が安心して飲める水が身近になく、池や川、整備されていない井戸などから汚れた水を汲んでいる。その水汲みは、子供達の仕事であり、遠い道のりを歩いて水汲みに行くために、学校に行くこともできず、未来を奪ってしまっていることに衝撃を受けた。そして、危険な汚れた水が原因で、年間百八十万人の子供が命を落としていることにも。同じ地球上でもこんなに違うのかと胸が熱くなった。この過酷な環境を改善してあげたいと強く思う。

水は一定のサイクルで地球上をめぐっている。その水のほとんどが海水で、その中で人間が使える水は一％未満。そして、昔と今を比べても、使用できる水の量は変わらないそうだ。変わった点は、人口の増加と生活水準が上がったこと。そのため昔より私達の生活に必要な水の量は増えている。そしてこれから先も使用可能な水の量は変わらない。たくさんあるように見えても限られた水を、私達が大切に使って、守っていく必要があるのだ。

これから先、地球上の水の量と質を守っていくために私達ができることは何だろうか。

まずは、現状を知ること。これまで水についてあまり深く考えることはなかった。自由研究をはじめ、この作文の機会を通して、水の知識や地球規模で私達の水源が危機にさらされている事実を知ることができたと思う。

次に、行動に移すこと。小さなことだが、節水や川などにゴミを捨てない、生活排水に気を配るなどのことができると思う。みんなの小さな積み重ねが大きな成果をもたらすことにつながると思う。これらを実行し、水を使える環境に感謝して生活していきたい。地球のため、人類の幸せのため。そして、より良い未来を目指して。